

群馬県青年会との 合同ボランティア活動報告

去る五月二十日、群馬県青年会
二十三名の皆様が来県し、当会会
員と一緒に南相馬市小高区でボラ
ンティア活動を行いました。

前日に南相馬市新祥寺に到着
し、そこから慰霊碑がある各場所
で諷経し、震災直後の状況がほほ
そのままになっている浪江の街中

を視察しました。
私(野田精頭)もバスで同乗
し、これまでの経緯や分かる範囲
の現状説明をさせて頂きました
が、初めていらっしゃった方は少
しショックを受けていたようでし
た。どんなことでも「まずは見る
こと、知ること」から始まるので
しょう。私自身も今後の諸活動や
災害に対して肝に
銘じていかなけれ
ばならないと思
いました。

夕方、宿泊会場
の湯本温泉に到着
しました。当会会
員と合流し、盛大
に懇親会を開催し
ました。修行時代
の旧交を温めた
り、新たなご縁を
結んだり楽しい
時間でした。



浪江町瀧戸地区でも慰霊法要を勤めてきました。まだまだ生々しい現場です。



懇親会は大いに盛り上がりました。群馬県青年会へ「いわき産トマト」を贈呈しました。



ボランティア開始前の全体打ち合わせです。「出来る人が、出来る時に、出来る事を」センター入り口にも掲げられているスローガンです。



県内の若手も多く参加してくれました。パワーやスタミナはさすがです。



集合写真。遠く離れていても福島復興を願う気持ちは皆同じです。

翌日は早朝に出
発し、「南相馬ボ
ランティア活動セ
ンター」へ行きま
した。センター長
さんは関東から震
災後に転住し、ご
自身の体や時間を

全て復興に捧げていると言っても
過言ではない方です。ミーティン
グの時のご挨拶は大変身の引き締
まるもので、全員が心を一つにし
て奉仕作業に向かいました。
総勢四十人ほどの我々の担当し
た作業は、ビニールハウス解体、
竹林伐採、清掃作業でした。(現
場は奇遇にも曹洞宗寺院の檀家さ
んのお宅)大変やりがいのある作
業でしたが、両県会員のチーム
ワークでこの要望に応えることが
出来ました。
群馬県の皆様方の段取りや勤労
意欲は素晴らしいです。中心
メンバーの皆様は、この事業の為
に昨年末にも小高区に来て活動さ
れていました。その経験で、飲料
水や備品の確保、全てに抜かりの
ない準備をしていました。当会でも
見習うべき所ではないでしょうか？
皆様方のご協力で大変素晴らしい
活動になったことに改めて感謝
を申し上げます。このような活動
を通して、我々青年会員自身が自
己研鑽し、地域の恩返しに繋って
いくことを切に願っております。
続けて欲しい事業の一つと私は個
人的に思っております。

群馬県青年会との

合同ボランティア活動報告

去る、五月二十日、群馬県青年会二十三名の皆様が来県し、当会会員と一緒に南相馬市小高区でボランティア活動を行いました。

前日に南相馬市新祥寺に到着し、そこから慰霊碑がある各場所で諷経し、震災直後の状況がほぼそのままになっている浪江の街中を視察しました。

私（野田精顕）もバスで同乗し、これまでの経緯や分かる範囲の現状説明をさせて頂きましたが、初めていらっしゃった方は少しショックを受けていたようでした。どんなことでも「まずは見ること、知ること」から始まるのでしょうか。私自身も今後の諸活動や災害に対して肝に銘じていかなければならないと思いました。

夕方に宿泊会場の湯本温泉に到着しました。当会会員と合流し、盛大に懇親会を開催しました。修行時代の旧交を温めたり、新たなご縁を結んだりと楽しい時間でした。

翌日は早朝に出発し、「南相馬ボランティア活動センター」へ行きました。センター長さんは関東から震災後に転住し、ご自身の体や時間を全て復興に捧げていると言っても過言ではない方です。ミーティングの時のご挨拶は大変身の引き締まるもので、全員が心を一つにして奉仕作業に向き合いました。

総勢四十人ほどの我々の担当した作業はビニールハウス解体、竹林伐採、清掃作業でした。（現場は奇遇にも曹洞宗寺院の檀家さんのお宅）大変やりがいのある作業でしたが、両県会員のチームワークでこの要望に応えることが出来ました。

群馬県の皆様方の段取りや勤労意欲は素晴らしかったです。中心メンバーの皆様は、この事業の為に昨年末にも小高地区に来て活動されていました。その経験で、飲料水や備品の確保、全てに抜かりのない準備をしていました。当会でも見習うべき所ではないでしょうか？

皆様方のご協力で大変素晴らしい活動になったことに改めて感謝を申し上げます。このような活動を通して、我々青年会自身が自己研鑽し、地域の恩返しに繋っていくことを切に願っております。続けて欲しい事業の一つと私は個人的に思っております。

特別寄稿 群馬県曹洞宗青年会会長 渡辺龍道師

「南相馬市での支援活動」



群馬県曹洞宗青年会の会長を務めております渡辺龍道と申します。この度、有難くお声を掛けて頂いたので、僭越ながら南相馬市での復興支援活動について寄稿させていただきます。

南相馬市の野田精頭師とは、大本山總持寺安居中より交流があり、ずっと親しくしておりました。大地震、原発事故が起きた時には福島県の同安居の光英会長や瀧澤副会長、そして避難区域にいる野田師が頭に浮かび、すぐに皆さんに連絡を取りました。一月ほ



ど経った頃に野田師から「学校等の避難所で炊き出しをお願いします」「今必要な物資は云々」といった情報を頂きました。その情報や野田師の現地での折衝で、群馬県青年会の有志と共に五、六月にかけて数度の炊き出しを避難所ですることにになりました。おりしも自坊の施食会が四月にあり、その際に檀信徒に呼び掛けた所、直ぐに炊き出しの具菜や浄財等のお志が集まりました。「私も気持ちがあるので、私の代わりに頑張ってきて下さい」「お寺さんが活動するのであれば、出来る範囲で協力したい」などと励ましの声を頂き、檀信徒の皆様の応援で私自身の胸が熱くなりました。炊き出しの時の挨拶で「その思いと共に群馬県から参りました」と申し上げた所、避難所の方々が箸を止めて耳を傾けて下さったのも印象的

でした。避難所が閉所になってからも何度も南相馬市に足を運びました。現地の方のアイデアで、群馬県有志各寺で家庭内にある未使用の日用品を集めて現地の仮設住宅団地でチャリティバザーを行い、その収益を寄附させて頂きました。また、群馬県内でも福島県の現地の声を聞いて貰う為に群馬県人權研修会や青年会緑蔭禅の集いで野田師や南相馬市関係者からお話を聞く機会を設けたり、当会五十年記念事業で仮設住宅の皆様をミュージカルに招待する事業を行いました。また、昨秋以降は南相馬市小高区で身体を使っている復興作業に参加するようになりました。本年五月には光英会長とともに更に声掛けをし、両会の公式事業として両県青年会員五十名の志を合わせて汗を流しました。参加した当会の若手宗侶は、四年以上経過しているとは思えない避難区域の惨状に涙し、「引き続き何か少しずつでも協力を続けたい」と声を挙げました。当会会長として嬉しく、またその道心を頼もしく感じた次第



です。そして、その活動は今秋以降も続けていく予定です。震災以降、私が福島県の復興に向けての活動を続けることが出来たのは様々な縁に依るものだと感謝しております。その縁に恵まれた自分が何を出来るのかを探求し、仲間と一緒に智慧を出し合い、その和合僧の力で大きな潮流を作っていく。それが我々青年会に託されている修行であると私は思っています。最後に、被災復興の最前線で活躍されております福島県青年会様の益々の興隆と、被災地域の日も早い復興を祈念いたしまして結びといたします。

合掌

特別寄稿 群馬県曹洞宗青年会会長 渡辺龍道師

「南相馬市での支援活動」

群馬県曹洞宗青年会の会長を務めております渡辺龍道と申します。この度、有り難くお声を掛けて頂いたので、僭越ながら南相馬市での復興支援活動について寄稿させていただきます。

南相馬市の野田精頭師とは、大本山總持寺安居中より交流があり、ずっと親しくしておりました。大地震、原発事故が起きた時には福島県の同安居の光英会長や瀧澤副会長、そして避難区域にいる野田師が頭に浮かび、すぐに皆さんに連絡をとりました。

一月ほど経った頃に野田師から「学校等の避難所で炊き出しをお願いしたい」「今必要な物資は云々」といった情報を頂きました。その情報や野田師の現地での折衝で、群馬県青年会の有志と共に五～六月にかけて数度の炊き出しを避難所ですることになりました。おりしも自坊の施食会が四月にあり、その際に檀信徒に呼び掛けた所、直ぐに炊き出しの具菜や浄財等のお志が集まりました。「私も気持ちがあるのですが、私の代わりに頑張ってきて下さい」「お坊さんが活動するのであれば、出来る範囲で協力したい」などと励ましの声を頂き、檀信徒の皆様の応援で私自身の胸が熱くなりました。炊き出しの時の挨拶で「その思いと共に群馬県から参りました」と申し上げた所、避難所の方々が箸を止めて耳を傾けて下さったのも印象的でした。

避難所が閉所になってからも何度も南相馬市に足を運びました。現地の方のアイデアで、群馬県有志各寺で家庭内にある未使用の日用品を集めて現地の仮設住宅団地でチャリティバザーを行い、その収益を寄附させて頂きました。

また、群馬県内でも福島県の現地の声を聞いて貰う為に群馬県人権集会や青年会緑蔭禅の集いで野田師や南相馬市関係者からお話を聞く機会を設けたり、当会五十周年記念事業で仮設住宅の皆様をミュージカルに招待する事業を行ったりしました。

また、昨秋以降は南相馬市小高区で身体を使つての復興作業に参加するようになりました。本年五月には光英会長とともに更に声掛けをし、両会の公式事業として両県青年会会員五十名の志を合わせて汗を流しました。参加した当会の若手僧侶は、四年以上経過しているとは思えない避難区域の惨状に涙し、「引き続き何か少しずつでも協力を続けたい」と声を挙げました。当会会長として嬉しく、またその道心を頼もしく感じた次第です。そして、その活動は今秋以降も続けていく予定です。

震災以降、私が福島県の復興に向けての活動を続けることが出来たのは様々な縁に依るものだと感謝しております。その縁に恵まれた自分が何を出来るのかを探求し、仲間と一緒に智慧を出し合い、その和合僧の力で大きな潮流を作っていく。それが我々青年会に託されている修行であると私は思っています。

最後に、被災復興の最前線で活躍されております福島県青年会様の益々の興隆と、被災地域の日でも早い復興を祈念いたしまして結びといたします。 合掌